

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

実行委員長 救助救命本部副本部長 所感

菊地 太 救助救命本部副本部長、第7回JLAシミュレーション審査会実行委員長

まずは第7回目の審査会に参加して下さった多くの皆様に感謝いたします。

今年度は、全国5カ所開催は初めての試みでしたが、それぞれの地域で大きな成果を上げることができました。

それには、多くの企業様からのご支援があるからこそ継続できていると深く感謝しております。

このご支援は、我々ライフセーバーのためでなく、多くの水辺利用者にとって安心安全な環境作りに審査会を通して役立たせて頂いています。

また、審査会当日に向け各地域の各行政様と十分なお打ち合わせができたのは、ひとえに、各地域で多くの時間を費やして、動いてくださったホストクラブの方々がおられたからと感謝しています。

地域ライフセービングクラブが長い時間をかけて積み上げてきた地域行政様との信頼関係が十分構築されている地域や、今回の審査会を通して地域ライフセービングクラブと関係行政様と顔の見える関係となれた地域もありました。

いずれにせよ、水辺利用者にとっては、安心安全に繋がる良き効果であったと信じています。

一方、係員やエキストラに関して、年々協力して下さるメンバーが増えていることや、係員各セクション、エキストラの演技指導などとても大切なポジションの後輩への伝達作業なども垣間見え、次世代へ引継ぎも同時進行で進め、今後の展望に明るさを感じています。

審査会の趣旨や目的は、本報告書の2ページ目に記載ありますが、今回の想定で大きな課題として見えてきている項目に、傷病者のいる現場からの情報が監視長に明瞭簡潔に伝達されているかがライフセーバー一間の連携能力に大きく影響したのではないのでしょうか。

この事は、有事対応時だけでなく、監視業務を含むすべての行動時にも必要不可欠な能力です。

鍛冶先生の所感にも記載あるように、ライフセービング活動はどのシーンにでもチームダイナミクスが重要となります。

来年度も全国5カ所で開催を予定しています。

今後とも皆さんと共に、高い誇りを持って活動できるよう、邁進していきますので、どうかお力添えの程宜しくお願いいたします。

最後になりますが、地域クラブから選抜された審査員の【検討推奨事項】は、各浜で長い歴史ある監視業務を先人から受け継ぎ、今日まで多くの経験に基づいて構築された貴重な物とらえています。

第6回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項に示した『エキストラ所感』『審査員所感』は審査員などから取りまとめた【検討推奨事項】となりますので、『メディカルダイレクター所感』と同様、熟読して頂き、今後のパトロールに活かして頂くことが、審査会の根幹であり、運営側から切望するところであります。

今後も、皆さんと一緒に審査会の運営自体も検討し、大きな効果を得られるようご協力のほど宜しくお願いいたします。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

エキストラから気づいた実施者の動き 所感

【傷病者・関係者役】

《検討事項》

- ・ 救護現場にてファーストLSの周囲の安全確認、意識確認が曖昧なチームが多かった
- ・ LSが急に酩酊者グループに割入ってきて『離れてください！』の一点張りのチームがあった
- ・ LSが泥酔者から友人を掴み離れたときに、後ろに落ちていた大きな石に足が引っかかり後ろに転げそうになった
- ・ 情報聴取について、友人が現場から離れてしまい、情報が少なく、救急隊への引継ぎに手間取るチームが多かった
- ・ 複数事案発生時の現場統制について、情報伝達や優先順位を決定するトリアージが出来ておらず、結果として重大事案に対する人員等が不足し、不十分な活動内容となっていたチームが多かった
- ・ 想定の時系列内の出来事(有事)に対しては、訓練の成果を発揮するLSが多かったが、酩酊者グループや観衆などの対応については、コミュニケーション力や即断力や問題解決力などが不足して活動に困るLSが多かった
- ・ LSや救急隊に伝達をするときに観察や手技が止まるLSが多かった
- ・ 救急隊が、手当てしているLSに状況を聞いているのに、いちいち記録係のLSにも伝達しているチームがあった
- ・ サングラスは外して会話すべきと思料。外す事で誠意や真剣さが伝わるものとする
- ・ 傷病者記録票を記載しているLSが、焦りや緊張で、大半が第三者では判別できない文字になっていた
- ・ 雨の現場では、傷病者記録票が濡れないように準備することが必要と感じた
- ・ LS間の会話、やり取りが少なく、連携がとれていないチームがあった
- ・ セカンド・サードの要請が遅いチームがあった(例えば、酩酊者7人+要救助者の対応は1人では厳しい)
- ・ AEDの要請と使用までに時間がかかり過ぎているチームが多かった
- ・ 酩酊者グループに対して『邪魔だよ！』など乱暴な言葉遣いのLSがいた。また、観衆を現場から離すために相手の体を掴んで突き放したり取っ組み合うLSもいた
- ・ 酩酊者の1人がLSに話しかけたが、無視された。また、話に対して、全く違う回答をするLSがいた
- ・ 泥酔者の隣で酩酊者が添い寝していたがLSは無視。更には、酩酊者を邪魔扱いして、跨いだり、踏みつけたり、突き押ししたり、投げ飛ばしたり、など酷い扱いをするLSがいた
- ・ 砂浜は、所々石や瓦れき貝など散乱していて危険な箇所もあったが、駆けつけてきたLSが裸足だったのが気になった。その後、泥酔者の近くに石や貝などがあったが気にせず対応していたので泥酔者に対しても配慮が必要と感じた
- ・ 泥酔者への体位変換がとても乱暴。LSによっては泥酔者を側臥位にするのではなく転がすだけ。泥酔者はモノではない、もっと丁寧に優しく思いやり持って動かした方が良い
- ・ あるLSは、PPEがはだけていたので、泥酔者を体位変換した際にPPEが泥酔者の下敷きになってしまい身動きが取れなくなっていた
- ・ 嘔吐物の処理に躊躇し、泥酔者の観察が遅れて、jcs300と判断するまでに時間のかかるLSが多かった
- ・ LSがラテックスグローブを装着せず、泥酔者に触りすぎている
- ・ ラテックスグローブを装着し嘔吐対応するLSの中には、処置中に砂を触ってしまい、汚れたグローブのまま泥酔者の口内に指を入れていた
- ・ 資器材の管理が雑。特に、救急隊の資器材運搬を優先する為、LSが持ってきた資器材が砂浜に転がっていることが多かった
- ・ 酩酊者の1人が砂を落としに波打ち際にいたが、継続監視ができていないチームが多かった

◆用手固定について

- ①耳の左右を押さえているだけで、体と首の動揺を押さえられていない
- ②耳の左右を押さえているだけで、LSが傷病者に話している時に、LSが顔くのにあわせて傷病者の首も動いている
- ③傷病者の首を点で押さえていて面で押さえていない。そして、固定が強すぎて痛い

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ④傷病者の頭だけ押さえていて、座らせる(寝かせる)など体位を変える時に、体幹を押さえていない
※用手固定が出来ていたチームは皆無だった
※チームによっては、観衆に傷病者の頭部を持たせていた

◆声かけ

傷病者の気持ちに配慮したコミュニケーションが欠けていると感じた。LS によっては、お決まりの文句をただ発しているだけ。会話から何の情報を引き出したいのかを考え、いま傷病者はどれほど不安なのか、何を望んでいるのか、などの思いやりをもった会話があるとよい

◆ネックカラー

- ・首に巻かれたが緩くて固定には至らないチームが多かった
- ・練習したことがないので使えません、と話すチームがあった

◆立位からの固定

- ・BB が傷病者の体に密着していたチームは皆無だった
- ・立位でのBB 固定は、知らない・練習したことがない、と話すチームがあった

《推奨事項》

- ・想定開始までの資器材準備時に、普段通りにレスキューボードを波打ち際にセットをしているチームがあった。
- ・詰所で LS に「倒れている人がいる」旨を伝えたとき、全員が反応することなく、監視に集中できているチームがあった。
- ・あるチームは友人役を断固としてその場から離れることを了承しなく、関係者として身柄を確保していた
- ・酩酊者グループからの暴言や行動に対して、丁寧に対応しているLS がいた
- ・酩酊者グループやその他の利用客への対応について、一方的な質問に限らず、適切な指示や要請を行っていたLS がいた
- ・役割分担で、酩酊者グループを現場から離し話を聞くLS がいたチームは、対応と情報の聞き出しがスムーズだった
- ・騒いでいる酩酊者グループに対して、救護現場から離れさせて、1 か所に集めて話を伺っていたチームがあった
- ・ディスポグローブを何枚か重ねて装着していたLS は、グローブが砂などで汚れた度に交換して救護手技を行っていた
- ・泥酔者対応でも、目を見て、意識の無い方の対応をしながら、的確な現場統制をとり、酩酊者グループへ、大きい声で丁寧な指示・対応あるLS がいた
- ・サークルを作り『ここから現場に入らない』などの明確な指示をするチームがあった
- ・周りに流されずに冷静な吐物処理、観察を行うLS がいた
- ・LS 同士声を掛け合い、補い合いながら対応できているチームがあった
- ・あるチームは、AED 操作中にLS 以外を近付けないように努めていた
- ・どのLS も使命感が溢れ出て、対応に従事していた
- ・高校生のチームは、現場経験が少ない中、思いやり、優しさ、対応力があり、素晴らしい動きをしていた
- ・個別の現場統制について、監視長以外に、現場の統括を行う者が明確で、広い視野から現場を観察し活動方針を示していたチームがあった

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

【救急隊役】

《検討事項》

- ・ 救急隊の誘導にこないクラブがあった。
- ・ 傷病者の人数、状況が把握できていないクラブがあった。
- ・ 傷病者が2名いることを通報できていないクラブがあった。
- ・ 傷病者記録票等の情報が救急隊から聞かなければ伝達しないクラブがあった。
- ・ バックボードの固定時にベルトがかけられないクラブがあった。
- ・ 泥酔者の対応を優先し、傷病者の全体的な全身観察をしていないクラブがあった。
- ・ 救急隊から依頼しないと資器材搬送、関係者の誘導に移らず車内収容まで時間を要したクラブがあった。
- ・ 友人や衆人への対応が粗雑であったり対応していないクラブがあった。
- ・ 関係者の確保ができていないクラブがあった。
- ・ 時間管理をしているクラブが少なかった。
- ・ 個人の報告が優先になり、連携が見られないクラブがあった。
- ・ 観察結果、脈がある傷病者へAEDを装着しているクラブがあった。
- ・ 傷病者情報記録票の記載が不十分なクラブがあった。
- ・ 救急隊への報告が一方的になり、救急隊からの確認がとりにくいクラブがあった。
- ・ 傷病者への声かけに夢中でLS同士の声かけがおろそかになっているチームがあった。
- ・ 真夏の炎天下を想定した場合、搬送時はサンダルを履いた方が良いと思うが、履いてないチームがあった。
- ・ (救急隊側として)本来であれば、救急隊が到着した時点で救急隊長の指揮下に入るため、こちら(救急隊)側が次に何をするか促して(ライフセーバーに)動いてもらうという形になるが、審査会ということでこちら(救急隊)も控え目で行ってしまった。
- ・ 靴やサンダル等を履いておらずビーチに放置されている石等へ配慮を欠くチームがあった。
- ・ 自分が、自分がと突き進んでしまい救急隊からの指示や要求を聞けていない時があった→積極性はよいが現場にいるのは自分だけではないので監視長中心に落ち着けると良いと思う。

《推奨事項》

- ・ 監視長中心に全体の統制が取れ情報の集約等がうまく出来ていて引き継ぎがスムーズなクラブがあった。
- ・ 救急隊の搬送路について、足元に注意するよう声かけしているクラブがあった。
- ・ 救急隊到着時に傷病者2名の状況を把握し適切に報告しているクラブがあった。
- ・ 車内収容できるのが早いクラブは、固定要領も早く救急隊との連携も良好であった。
- ・ 泥酔者や関係者への接遇が適切なクラブがあった。
- ・ 関係者の確保がしっかりできており、救急車への同乗の案内を適切に行っていたクラブがあった。
- ・ 搬送中も傷病者に声かけをしているクラブがあった。
- ・ 他の海水浴客に対して丁寧に対応しているクラブがあった。
- ・ 救急隊から言われる前に救急隊の資器材搬送を積極的に支援しようとしていた。
- ・ 傷病者記録票の記載内容と救急隊への報告要領が適切なクラブがあった。
- ・ 救急隊のストレッチャーに移す際の位置取り、支援が適切であった。

《その他》

- ・ 救急隊が現場到着し傷病者と接触後は、観察や処置を含めすぐにライフセーバーと交代して、傷病者の対応にあたる人が多いと思います。
- ・ もちろん人手が足りない部分はライフセーバーに対応をお願いすることになると思いますが、それでも

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

救急隊が主導になると思います。

- ・ 毎回の課題になりますが、救急隊役である我々が到着しても、特にライフセーバーに指示はせずに、傷病者の状況把握をライフセーバーにある程度任せ、それを我々が見守ることになり(審査の都合上仕方ない部分でもある)そこも実際の連携とは異なる部分であると感じました。
- ・ 我々もどのようにしたら実際の現場に近づけ平等な審査会に繋がられるかこれらの反省点を次回以降活かしたいと思いました。」
- ・ 毎回の課題になりますが、救急隊としてどこまで手を出して良いか統一した対応に難しさを感じました(できている隊は良いですが、状況が把握できていないクラブにどのタイミングで手助けをするか、情報をとるよう促しても情報をとらないケースでこちら側から聞くケースなど)。傷病者が2名いれば、応援要請した救急隊が来るまで、ライフセーバーの判断ではなく、救急隊として傷病者を把握するため、2名と1名に分散して傷病者の状況把握する救急隊がほとんどで、重症者を救急隊が判断して優先して搬送する体制をとると思います。
- ・ やるべきことをやらない処置、情報収集などに対し、救急隊としてどのタイミングで対応するかもしくは、何もやらないように統一するか、決めにくい部分はありますが、統一をはかる意味で改めて検討して頂けるとありがたいです。

推奨事項(対応が優れており、推奨する手技)

監視長

- ・ 傷病者に愛護的だった。
- ・ 情報を自分から取りに行ったところ。
- ・ ハキハキ。丁寧な言葉。接遇。
- ・ 救急隊に2報目の情報提供をしたこと。
- ・ 通報内容、的確に行っていた。
- ・ 軽症者への声がけが的確だった。
- ・ 警笛の活用は有効であった。
- ・ 役割分担が明確であった。
- ・ 傷病者記録票を活用できていた。傷病者記録を救急隊に渡せていた。
- ・ 軽症者への説明が丁寧であった。
- ・ 周囲を確認できていた。
- ・ シーバーが聞き取れないフォローとして現場に向かえて良かった。落ち着いた声のトーンで聞き取りやすかった。
- ・ 正確に救急車電話対応できていた。
- ・ 救急車要請速かった。
- ・ 笛は他の浜はやってなく、とても良かったと思う。
- ・ 病院への地図を活用していた。分かりやすいと思った。
- ・ 重溺者、クラゲの方、共に情報把握メモにまとめられていた。
- ・ 自ら落ち着いている人を見つけ、傷病者情報をお客様から沢山集めようとしていた。指示わかりやすい。
- ・ 長として海、浜、全体広い視野で監視する意志がみえた。海の安全もよく確認していた。
- ・ 傷病者だけでなく、海もしっかりと確認していた。
- ・ ゴーグルまで行う感染症対策の徹底良かった。
- ・ 海の安全も見る余裕があって良かった。クラゲの方への対応も親切に行っていて良かった。長が事例の他にも今後の行動をLGに伝えられていて良かった。
- ・ 常に落ち着き、情報把握につとめていた。
- ・ 全体を良く把握して、的確な指示が出来ていた。
- ・ 傷病者への対応が早かった。
- ・ 関係者の確保ができていた。
- ・ ビニールシートの上に集合させるのはよかった。
- ・ サークルを活用して警戒線を示していたのはよかった。
- ・ 傷 A の近くにイスを置いて座らせる。日照あるが涼しいのでよかった。
- ・ 傷 A の接遇は良い。サングラスはずし、丁寧に。
- ・ パトロールを前面に出して初動の確保、状況収集が的確だった。
- ・ 声の抑揚はよい。
- ・ 本部と現場のコミュニケーションがとれている。傷病状態を伝えている⇔逐一報告。
- ・ バックボードを使用(胸圧時)
- ・ 搬送後の資器材の整理、撤収 good
- ・ 頭部用手固定→good
- ・ 聴取できている。
- ・ 最初、関係者を確保でき、協力を得ていた。
- ・ 処置は適切。
- ・ 溺者への接触、早。
- ・ 情報聴取、落ち着いている。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 監視長はどの位置についたらいいか、考えていた。
- ・ 情報共有を意識的に行っている。
- ・ 現場に出向き、情報収集を積極的に。
- ・ 救急隊と連携でき、補助にあたっていた。
- ・ 観衆へのアナウンス OK。
- ・ クラゲ傷病者への対応も忘れていない。
- ・ 4名 BLS の条件で椅子に座らせて海岸側を向かす。通報者を活用して観衆対応。P に事情聴取、うまく調整している。
- ・ 救急隊の申し伝え OK。
- ・ 現場と本部のコミュニケーション OK。救急要請が早い。
- ・ 関係者への聴取の際にすこし離れて聞き方がうまい。
- ・ 接触してから1分以内に本部に通知
- ・ 意識回復後は BB を外して。
- ・ FR→SR、感染対策している OK
- ・ 海の安全放送指示
- ・ CPR 開始が早い。救急隊到着が早い。
- ・ トリアージと通報が適切
- ・ 監視長は冷静に全体を確認できている
- ・ 重症者の対応者と監視長の連携が良い。結果的に早い通報につながった
- ・ 通報が早い 早い通報が救命につながることを理解している 状況把握、情報収集後の判断が的確
- ・ 通報が1番早い 早い通報が救命につながることを理解している
- ・ 現場と本部の情報伝達がとても良い 本部が機能している。全体を監視する立場としてあるべき姿かと感じる。
- ・ 現場と本部の情報伝達が良い 監視長と補佐役の隊員により本部が機能している。
- ・ 監視長からトランシーバーで全体共有での情報展開があったことが良かった。
- ・ 監視長が本部から現場に行ってしまったが、補佐役の監視員が長の代わりとして本部機能を果たしていた。
- ・ 救急要請の際ゆくり伝えてられていた。
- ・ 継続監視への指示ができています。
- ・ 目撃者への対応良い。継続監視を続けられている。
- ・ セカンドコールができています。鼻血対応や継続監視への確認ができています。対応後の片付けまで行えている。
- ・ 救急隊への引き継ぎ、継続監視の確認できています。
- ・ 現場からの情報が本部まで通っている。現場への指示が的確。
- ・ 継続監視への指示出しができています。拡声器の使用前に共有ができています。
- ・ 本部でも記録をとっている
- ・ 救急要請が早い。現場の状況をメモできている。
- ・ 救急要請が早い。状況を図に書いていた。鼻血対応も把握している。
- ・ 継続監視の引き継ぎができています。鼻血の傷病者に対して絶え間なく声かけができています。
- ・ 傷病者の状況をいち早く確認できている。現場での指示出しが具体的にできています。救急隊への引き継ぎがスムーズ。
- ・ 拡声器を効果的に使って、周りに協力を仰いでいて良かった。
- ・ 随時一方的に現場が状況を上げるやり方は効率的だった。
- ・ 感染防止の二重確認がよかった
- ・ 現場撤収の指示あり
- ・ 整理整頓がよい
- ・ 継続監視は意識していた

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

	<ul style="list-style-type: none"> ・ いち早く救急車要請の判断を確認したのはよい。 ・ 救急車要請の判断が早くてよかった ・ 救急車要請だけでなく、警察要請の判断はよかった。 ・ 本部と現場のコミュニケーションがよく取れている。 ・ 救急隊誘導を海の家に依頼指示, 遊泳条件を変更 ・ LS2 名のアプローチが早い ・ 本部と現場のコミュニケーションがよく取れている。継続監視ができています ・ 毛布を使うのは良い。観衆の統制がうまくとれている。 ・ 救急隊に状況変化を再度通報 ・ 傷病者 A の処置を陸側に向かせて実施(LS は現場みれる) ・ CPR 開始が圧倒的に早い。毛布を使って遮蔽(観衆活用) ・ はきがあり、抑揚つけて観衆対応。 ・ 現場と本部のコミュニケーションがよい。傷病者 B への接遇がよい。詳細報告ができています ・ 傷病者 B への対応が早い。状況を本部に逐一報告。観衆を使い毛布で遮蔽。 ・ 現場と本部のコミュニケーションがよい。容態変化を適切に記録している。 ・ 砂浜に線を引いて観衆を外へ活動域確保 ・ 吐物対応 グローブ使用。監視長を中心。汚物バケツ用意。 ・ 隊内で感染についてやりとりあり。 ・ 鼻血の傷病者に気付き対応できていた。CPA 対応区域を足ですなに描く○。監視長自ら動く○。バイタル測定できていた。マリンシューズ、運動靴○ ・ 監視長は焦ることなく出来ていた ・ 積極的に情報収集 ・ 必要に応じて監視長が現場におもむき、指揮を取り、全体を動かしていた。各ライフセーバーが自主的に行動出来ていた ・ 現場と本部のコミュニケーションが密に取れている。限られたリソースでうまく役割ができています。救急搬送後 継続監視 ・ 観衆への対応が声の抑揚を使い分けている。救急要請追加連絡 ・ バックボード使用 頸椎保護 観察から CPR 開始まで早い 観衆活用 観衆への説明も適切 ・ サークル 拡声器使用 ・ メモをしっかり取っていた、拡声器も使用した ・ 情報をチーム内で共有していた、傷病者のプライバシー保護をしっかりおこなっていた。関係者にもしっかり状況を伝えていた。また、メモもしっかり取っていた。 ・ 落ち着いたトーンで無線のやり取りを行っており、仲間同士の信頼感を感じた。 ・ チーム内での年齢差を感じさせない、チームワークだった。 ・ 監視員の声掛けにより、エキストラが圧倒(制圧)されたとの話を聞きました。年齢を感じさせない対応(呼びかけ方)がよかったためだと思います。 ・ 全体的に落ち着いて取り組んでいた。AED の取り扱いが丁寧 ・ 監視長は全体を把握できていて素晴らしかったです。冷静なのも良かったです。 ・ 監視長の指揮、現場の判断、素晴らしかったです。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">監視員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビーチクローズの判断は早い。 ・ 観衆対応により観察が遅れている。 ・ 吐物1回目 4分20秒、5分10秒 意識 毛布 ・ 現場で指示を出す者がいてまとまりがあった ・ 1分3秒 2人 3人目 ・ まず声かけ イスを携行 ・ 当初トランシーバーの情報が伝わらなかった。 ・ 聞き取りばかり、体を見ていない。 ・ 浜での監視人を置いていた。 ・ 1人片付け

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 歩き出す
- ・ 円が小さい。
- ・ 応援要請、状況伝達遅い。
- ・ エキストラにのまれていた。
- ・ 要救に対して立ち上がり早く4人で出動するも連携が取れていなかった。
- ・ 笛を活用。
- ・ 体を横にして吐かせる。
- ・ 救急搬送時、LSは1人荷物に残った。
- ・ 最初から全員ビニールでまとっていた。海での事案だったら、メモ係と心マは早くやっている。
- ・ 吐物を出す時、顔を横にするだけ。体ごとでは。
- ・ 感染対策グッズを小分けにポーチにすることで人の入れ変わりが発生した場合もスムーズだと感じた。
- ・ 感染対策グッズをひとつにまとめていたからか現場のライフセーバーの導線がかさなることが多かった。
- ・ どんなに混雑した現場でも知人を確保し続けながら制圧しようとしていて良かった。
- ・ 対応する全員がガウンを着ることで傷病者と密な対応ができていた。
- ・ ※検討:ただ、ライフセーバー⇄客の間での感染防止にはなっているのか？
- ・ 浜の傾きを利用した逆流の対応は傷病者への負担が少ないと感じた。
- ・ ライフセーバーが倒れている傷病者に密接することで周りに邪魔されずに対応できていた？
- ・ 声を出して自分のやることを周囲に伝えられていた。
- ・ 1人につき1人分の衛生セットを用意されていた。
- ・ PA 対応時、袋にお湯を入れ、温められていた。
- ・ 事象 A:防護服着ながら継続的に声かけできていた。砂と日光を避け、海を背中側に移動。自分は海側を見て、監視を継続できていたら、なお良し。
- ・ 事象 B:バケツにまとめて持ってくると分かりやすいし、物を取り出しやすい。ゴミ箱は活用できた？
- ・ 事象 A:感染対策は良くできていた。声かけも良い。
- ・ 事象 B:救急隊への誘導が少し遅れた。救急隊への申し送り情報を的確に渡せていた。継続監視ができていた。
- ・ 事象 A:チーフと連携が取れていた。お湯が熱すぎないように水と混ぜていた。適温調節。体調変化、確認○。コロナを配慮して、もしこのあとコロナになった時の為に感染経路の確認、名前、電話を聞いていた。
- ・ 事象 B:バケツ2コ。
- ・ 事象 A:(空欄)
- ・ 事象 B:チーフがよくシーバーをとばせていた。
- ・ 事象 A:バケツにお湯を入れてあたためていた。
- ・ 本部で傷病者をチーフと2人で観察。
- ・ 事象 B:(空欄)
- ・ 事象 A:(空欄)
- ・ 事象 B:ガウン着せてあげていたので時短。人手がかかる。笛で緊急事態の報告。
- ・ バックボードにのせて、質の良い圧迫。本部に情報を記録表の記入。
- ・ 事象 A:チーフとしっかり会話しながら処置を考えていた。包帯で固定して手があいた状態にできていた。
- ・ シーバーのくり返し。了解。
- ・ 事象 B:(空欄)
- ・ 周囲への対応。ブルーシートを引き、それに集めたのがよい。
- ・ ライフセーバー同士の声かけ、これしたから、あれしてなど、声がかけていた。
- ・ 監視長の対応が冷静。
- ・ 意識が戻った人に説明が来ている。
- ・ 最初にとりかかった人の情報共有が的確で良い。
- ・ 一定して足の法にお願いしますと声かけしている。
- ・ しっかりと人数を周囲にかけている。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 傷病者をバックボードに乗せるまでに時間がかかっている。
- ・ しっかりと呼吸確認を行っている。
- ・ 取りつきは早かった。
- ・ 最初にバックボードに乗せることで運びやすくなっている。
- ・ 嘔吐をした時もしっかりと意識の確認をしている。
- ・ 救急隊との連携が上手くスムーズ。
- ・ 周囲の人への声かけが的確。
- ・ 何時に何が起こったのか伝えている。
- ・ 平らな場所で胸圧。
- ・ 関係者や野次への言葉遣い。
- ・ 胸圧を平らな所で行う。
- ・ ライフセーバーに喧嘩している人達があたっていたのに対応が少し遅れていた。
- ・ 感防をみんなで一度に行っていたが、その時はまだ状況が分からないため、準備は早いと思った。みんなで行うと海を見ている人がいなかった。
- ・ 鼻血の人の対応で1人にさせている時間が長い。
- ・ 感防を行うのが遅め、取り付きが遅い。
- ・ AEDのコネクターが砂についていた。
- ・ 感防をしっかりしてから胸圧。
- ・ ライフセーバーが「大丈夫です」とは言えない。
- ・ 鼻血対応で、海に背を向けない。
- ・ AEDの使い方が違った。
- ・ 聴取を胸圧と一緒に同時並行して行う。一通り処置してから関係者を探していた。
- ・ 「大丈夫」とはライフセーバーはなるべく言わない方が良いのでは？
- ・ コネクターが砂につきそうだった。地面におかない。
- ・ ケガ人に対しての保温に考慮していた。
- ・ 砂にサークルを書いて群集を整理している。とても良い。
- ・ 器材準備。即行で良い。
- ・ 意識無しの一報が●と、
- ・ バックボードを持ってかけつけるは、良いですね。
- ・ 傷病者B…早い段階で現場・傷病者Bの周辺に円を描き入れない。バックボードでブロック等。
- ・ 救急隊に気づくのが遅い。
- ・ →現場シーバーで本部対応。視野を広く。
- ・ 本部⇄現場とのやりとりが出来ていない。
- ・ A:ふき
- ・ クラゲ応急処置は理解しているのか？
- ・ おきざり→Aの不安につながる
- ・ Bに背をむける等対応必要。
- ・ B:縄
- ・ 現場⇄本部、状況把握、難。
- ・ 119番通報は？→時間がかかりかかっている、4分程。
- ・ A:ふき
- ・ 本部⇄現場、情報つかめていない。#119への通報、遅れる。
- ・ 鼻血の処置、ティッシュは？
- ・ クラゲの応急処置は？
- ・ B:縄
- ・ A:ふき
- ・ クラゲの応急処置、血液感染対策>Good
- ・ B:縄
- ・ 本部シーバーは？→現場ホイッスル
- ・ 情報共有→その後 Good/現場、シーバーを常に耳元へ。
- ・ A:ふき
- ・ 想定ありきになっていないか→普段、ゴーグル、エプロン、ゴム手して、パトロールする？

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

<ul style="list-style-type: none">・ B: 縄・ 現場シーバーを耳元においていない。・ →情報共有されていない。遅れが出る。・ 救急隊対応者 Good・ やじ馬対応苦戦→2人で対応→1人・ 感染対策 OK・ 現場⇔本部、情報共有あり・ クラゲ対応、浜辺にて OK・ チーム全体元気あり、士気あり・ パトロール OK(早い段階から)・ クラゲ彼女を先に見つける。マスクも早い。海もしっかり見ている。がチーフが本部で見っていた方がいいかも(情報を集約しながら)・ 通常警備セッティング早い・ クラゲ対応 OK 保温ありOK・ 関係者確保 OK・ チーフはしっかりと本部にて最後まで指示していた OK・ パトロール早い→本部へ誘導対応させる OK・ チーフが本部にて全体管理していた OK・ SETTING OK!・ クラゲの方への保温 OK。・ フェからの発信ナイス。・ 現場情報共有力ナイス。チーフ情報収集力、整理力、発信力 OK。・ CPR バックボードにのせての行動ナイス。現場長ナイス。・ 現場→チーフ→RESCUE 情報スムーズ。・ クラゲ←保温 OK・ チーフ常に海を見つつ全体を把握。指示 OK。・ 難しさ6。・ ガウンを正しく着用できていたが、手袋をつけずに対応していた。・ 難しさ7。・ お湯ペットボトルをあてて温めている。・ 難しさ6。・ ブルーシートを周囲の人にわたす→事伝わせるのが良い。・ 難しさ9。・ 難しさ8。・ 難しさ6。この想定は CPA 対応でなくなってしまった。・ 嘔吐への対応が弱い。・ クラゲ傷病者に対してバイタルサインを定期的に check していた。・ CPA に対してゾーニングをしている。・ 観衆対応により観察が遅れている。・ 推奨事項・ 吐物1回目 4分20秒、5分10秒 意識 毛布・ 現場で指示を出す者がいてまとまりがあった・ 1分3秒 2人 3人目・ まず声がナイスを携行・ 当初トランシーバーの情報が伝わらなかった。・ 聞き取りばかり、体を見ていない。・ 浜での監視人を置いていた。・ 1人片付け・ 歩き出す・ 円が小さい。・ 応援要請、状況伝達遅い。・ エキストラにのまれていた。
--

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 要救に対して立ち上がり早く4人で出動するも連携が取れていなかった。
- ・ 笛を活用。
- ・ 体を横にして吐かせる。
- ・ 救急搬送時、LSは1人荷物に残った。
- ・ 最初から全員ビニールでまとっていた。海での事案だったら、メモ係と心マは早くやっている。
- ・ 吐物を出す時、顔を横にするだけ。体ごとでは。
- ・ 感染対策グッズを小分けにポーチにすることで人の入れ変わりが発生した場合もスムーズだと感じた。
- ・ 感染対策グッズをひとつにまとめていたからか現場のライフセーバーの導線がかさなることが多かった。
- ・ どんなに混雑した現場でも知人を確保し続けながら制圧しようとして良かった。
- ・ 対応する全員がガウンを着ることで傷病者と密な対応ができていた。
- ・ 検討:ただ、ライフセーバー⇄客の間での感染防止にはなっているのか?
- ・ 浜の傾きを利用した逆流の対応は傷病者への負担が少ないと感じた。
- ・ ライフセーバーが倒れている傷病者に密接することで周りに邪魔されずに対応できていた?
- ・ 声を出して自分のやることを周囲に伝えられていた。
- ・ 1人につき1人分の衛生セットを用意されていた。
- ・ PA 対応時、袋にお湯を入れ、温められていた。
- ・ 事象 A:防護服着ながら継続的に声かけできていた。砂と日光を避け、海を背中側に移動。自分は海側を見て、監視を継続できていたら、なお良し。
- ・ 事象 B:バケツにまとめて持つと分かりやすいし、物を取り出しやすい。ゴミ箱は活用できた?
- ・ 事象 A:感染対策は良くできていた。声かけも良い。
- ・ 事象 B:救急隊への誘導が少し遅れた。救急隊への申し送り情報を的確に渡せていた。継続監視ができていた。
- ・ 事象 A:チーフと連携が取れていた。お湯が熱すぎないよう水と混ぜていた。適温調節。体調変化、確認○。コロナを配慮して、もしこのあとコロナになった時の為に感染経路の確認、名前、電話を聞いていた。
- ・ 事象 B:バケツ2コ。
- ・ 事象 A:(空欄)
- ・ 事象 B:チーフがよくシーバーをとばせていた。
- ・ 事象 A:バケツにお湯を入れてあたためていた。
- ・ 本部で傷病者をチーフと2人で観察。
- ・ 事象 B:(空欄)
- ・ 事象 A:(空欄)
- ・ 事象 B:ガウン着せてあげていたので時短。人手がかかる。笛で緊急事態の報告。
- ・ バックボードにのせて、質の良い圧迫。本部に情報を記録表の記入。
- ・ 事象 A:チーフとしっかり会話しながら処置を考えていた。包帯で固定して手があいた状態にできていた。
- ・ シーバーのくり返し。了解。
- ・ 事象 B:(空欄)
- ・ 周囲への対応。ブルーシートを引き、それに集めたのがよい。
- ・ ライフセーバー同士の声かけ、これしたから、あれしてなど、声がかけていた。
- ・ 監視長の対応が冷静。
- ・ 意識が戻った人に説明が来ている。
- ・ 最初にとりかかった人の情報共有が的確で良い。
- ・ 一定して足の法にお願いしますと声かけしている。
- ・ しっかりと人数を周囲にかけている。
- ・ 傷病者をバックボードに乗せるまでに時間がかかっている。
- ・ しっかりと呼吸確認を行っている。
- ・ 取りつきは早かった。
- ・ 最初にバックボードに乗せることで運びやすくなっている。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 嘔吐をした時もしっかりと意識の確認をしている。
- ・ 救急隊との連携が上手くてスムーズ。
- ・ 周囲の人への声かけが的確。
- ・ 何時に何が起こったのか伝えている。
- ・ 平らな場所で胸圧。
- ・ 関係者や野次への言葉遣い。
- ・ 胸圧を平らな所で行う。
- ・ ライフセーバーに喧嘩している人達があたっていたのに対応が少し遅れていた。
- ・ 感防をみんなで一度に行っていたが、その時はまだ状況が分からないため、準備は早いと思った。みんなで行くと海を見ている人がいなかった。
- ・ 鼻血の人の対応で1人にさせている時間が長い。
- ・ 感防を行うのが遅め、取り付きが遅い。
- ・ AEDのコネクターが砂についていた。
- ・ 感防をしっかりしてから胸圧。
- ・ ライフセーバーが「大丈夫です」とは言えない。
- ・ 鼻血対応で、海に背を向けない。
- ・ AEDの使い方が違った。
- ・ 聴取を胸圧と一緒に同時並行して行う。一通り処置してから関係者を探していた。
- ・ 「大丈夫」とはライフセーバーはなるべく言わない方が良いのでは？
- ・ コネクターが砂につきそうだった。地面におかない。
- ・ ケガ人に対しての保温に考慮していた。
- ・ 砂にサークルを書いて群集を整理している。とても良い。
- ・ 器材準備。即行で良い。
- ・ 意識無しの一報が●と、
- ・ バックボードを持ってかけつけるは、良いですね。
- ・ 傷病者B…早い段階で現場・傷病者Bの周辺に円を描き入れない。バックボードでブロック等。
- ・ 救急隊に気づくのが遅い。
- ・ →現場シーバーで本部対応。視野を広く。
- ・ 本部⇄現場とのやりとりが出来ていない。
- ・ A:ふき
- ・ クラゲ応急処置は理解しているのか？
- ・ おきざり→Aの不安につながる
- ・ Bに背をむける等対応必要。
- ・ B:縄
- ・ 現場⇄本部、状況把握、難。
- ・ 119番通報は？→時間がかなりかかっている、4分程。
- ・ A:ふき
- ・ 本部⇄現場、情報つかめていない。#119への通報、遅れる。
- ・ 鼻血の処置、ティッシュは？
- ・ クラゲの応急処置は？
- ・ B:縄
- ・ A:ふき
- ・ クラゲの応急処置、血液感染対策>Good
- ・ B:縄
- ・ 本部シーバーは？→現場ホイッスル
- ・ 情報共有→その後 Good/現場、シーバーを常に耳元へ。
- ・ A:ふき
- ・ 想定ありきになっていないか→普段、ゴーグル、エプロン、ゴム手して、パトロールする？
- ・ B:縄
- ・ 現場シーバーを耳元においていない。
- ・ →情報共有されていない。遅れが出る。
- ・ 救急隊対応者 Good

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ やじ馬対応苦戦→2人で対応→1人
- ・ 感染対策 OK
- ・ 現場⇄本部、情報共有あり
- ・ クラゲ対応、浜辺にて OK
- ・ チーム全体元気あり、士気あり
- ・ パトロール OK(早い段階から)
- ・ クラゲ彼女を先に見つける。マスクも早い。海もしっかり見ている。がチーフが本部で見ていた方がいいかも(情報を集約しながら)
- ・ 通常警備セッティング早い
- ・ クラゲ対応 OK 保温あり OK
- ・ 関係者確保 OK
- ・ チーフはしっかりと本部にて最後まで指示していた OK
- ・ パトロール早い→本部へ誘導対応させる OK
- ・ チーフが本部にて全体管理していた OK
- ・ SETTING OK !
- ・ クラゲの方への保温 OK。
- ・ フェからの発信ナイス。
- ・ 現場情報共有力ナイス。チーフ情報収集力、整理力、発信力 OK。
- ・ CPR バックボードにのせての行動ナイス。現場長ナイス。
- ・ 現場→チーフ→RESCUE 情報スムーズ。
- ・ クラゲ←保温 OK
- ・ チーフ常に海を見つつ全体を把握。指示 OK。
- ・ 観衆を●員できていた。
- ・ 搬送の協力依頼がスムーズ。
- ・ 監視長の移動対応が Good。
- ・ 話し方が丁寧だった。
- ・ CPA の患者から離して情報を取っていた。
- ・ 監視を継続して続いていた。
- ・ 浜上げした OK
- ・ 感染対策がバッチリでした。
- ・ 通告者から事情聴取をリーダーがしっかりメモしていた。また、その後の協力も要請していた。意識なしの現場のチーフが要救護者、その都度、リーダーに連絡を入れている。
- ・ 救護者への声がけと状況(状態を)メモ出来ている。119 番への適格情報を伝えている。
- ・ (現場からの情報を逐次得ている者)
- ・ 他の遊泳客へのインフォメーションを流している。
- ・ (配慮と協力を要請している)
- ・ シーバーチェック OK
- ・ クラゲ対応 OK→海見ながらかは不明。
- ・ 現場長⇄本部 OK(情報共有 OK)
- ・ クラゲ OK→説明も OK チームワーク OK
- ・ 観衆対応、関係者聞き取り OK うまい
- ・ クラゲ対応 OK⇄海を見てました
- ・ 他の客へのメガフォンインフォメーションいいね
- ・ チームワーク OK
- ・ 周辺の人々に声掛けを行うのが良いと思います。何故こういう処置が必要なのかを念頭において。
- ・ 大変良かったと思います。
- ・ 全体的なレベルが高かったが、声出しで連携があれば、なおよし。
- ・ チーム内における活動報告及び情報共有を適時適切に実施。監視長な適切な指示有り。人の統制及び説明適切。資機材(ホイッスル)の有効活用有り。
- ・ 拡声器の使用有り
- ・ 周囲の人を活用し、活動スペースを確保

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 感染症対策万全。
- ・ 一般市民を上手く活用した作業有り。
- ・ 拡声器の有効活用有り。
- ・ 救急隊への引き継ぎはスムーズだった
- ・ ボードを持ってきたのはよかった
- ・ 救急隊到着後の協力はよかった
- ・ 監視が広範囲で良かった 資機材を携帯しながら監視活動を実施→早い段階で対処できている
- ・ トラメガ、ホイッスルを使用してうまく観衆を遠ざけていた 監視活動から声かけもスムーズ/だった 観衆に助力を求めるなどうまく利用していた 人員が足りているかなどの連携も大きな声でのアピールしていて良かった
- ・ 現場に全体を見れるを配置していた
- ・ 最初から監視本部で手袋着用していてよかった トラメガを使用してはっきりしかり指示していた
- ・ 観衆に協力依頼し目隠ししておりアイデアが良かった バックボードの準備、声かけが良かった
- ・ 大きな声で指示は OK 観衆を安心させる声かけは良かった
- ・ 防護服の準備が早くて良い 観衆と要救助者との間に入っていた 規制線を張っていて良かった
- ・ 規制線張り大きな声が良かった 目撃者を確保してはっきりした質問 知り得た状況をすぐに本部に報告 観衆をうまく利用し観衆に対する説明も良かった
- ・ 第一報が良かった 観衆への協力依頼が良かった
- ・ トラメガ使用、規制線の設定が良かった
- ・ 準備段階から良かった 指揮官の指揮も良かった
- ・ 常に気道確保ができています
- ・ 長笛による注意周囲へ離れるように声かけられている
- ・ 逆流回数など傷病者の状態を現場長に2回繰り返して伝えられて
- ・ 回復した傷病者への説明ができています
- ・ 鼻血・くらげ対応の際、傷病者を内側に向ける配慮ができていた
- ・ 楽な体勢を聞き、意識がなかった状況を伝えられていた
- ・ 回復後の傷病者への説明ができていた
- ・ 周囲を統制したり状況説明ができる人員が確保できていない
- ・ CPR までの移行が早い
- ・ 冷静に処理していた
- ・ 声かけが的確であった。
- ・ 会場全体に気を配っていた。
- ・ 全体的に良かった。
- ・ 各自の判断で動けており、情報共有も含め良かった。
- ・ アプローチは悪くなかった。
- ・ ファーストアプローチは良かった
- ・ 満遍なく対象はしていた
- ・ 現場経験少ない割に頑張ってくれました!!
- ・ 全体的な統率は取れていた
- ・ 大きな問題無し
- ・ 一つ一つの対応は丁寧だった
- ・ 全体のコーディネーション、一つ一つの対応など、パトロールメンバーレベルに合わせた対応を行うよう心がけてください
- ・ 統率は取れていた
- ・ FA の対応が非常に丁寧。安心な言葉がけが良い。
- ・ 嘔吐対応、然るべき処置をされていた
- ・ 高校生にも真剣に対応、その可能性を見つめる
- ・ 痛みを1-10で表現させてる点は良かった
- ・ 感染対策のガウンは着やすそう

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ メガホンと笛は効果的。知人からの情報と現場の情報をすり合わせ、監視長に報告していた点良かった。傷病者落ち着かせられたら、現場にヘルプに向かったのは良かった。
- ・ 手袋に枚がさね良かった。119で救急隊への情報連携良かった。
- ・ 荷物回収して良かった。
- ・ タオルで嘔吐処理良かった。
- ・ 傷病者に声かけ続けたのは良かった。
- ・ 迅速な救急通報。
- ・ 迅速な救急通報。現場と現場長の連携○。現場長と監視長の連携○。
- ・ ガウンではなく長袖長ズボンを着用。
- ・ ゴーグルなど眼の保護を CPR 開始をもっと早く
- ・ もっと早くて良い
- ・ 第一救助者は必ず感染防護を
- ・ ゴーグルなど眼の保護 クラゲと鼻血の処置時は手袋を
- ・ 拡声器や笛を利用すると良いでしょう 病院選定は基本救急隊が行います(知識として持ち帰ってください)
- ・ 拡声器や笛など利用すると良いでしょう
- ・ 今後もブラッシュアップに務めてください
- ・ CPAの初期評価をしっかり マウスガードは感染対策として推奨されていないので、傷病者への濃厚対応は不織布マスクが良いでしょう
- ・ クラゲはアレルギーの有無を尋ねること 衆人の制圧に笛を使っても良い
- ・ 優秀です。来年度の活動に向けて更なる努力を期待します
- ・ 鼻血患者への接遇、装備の確認、バックボードの準備は出来ていた
- ・ 穴を掘ってきどう確保、装備の確認、毛布の準備はできていた
- ・ 吐瀉物とれていたのに、二重手袋もよかった、毛布による個人配慮は、すごい。
- ・ ライフガードは最後まで一名で海を観ていた
- ・ 最後まで海を観ていたライフガード一名
- ・ 傷病者の容態確認 現場に向かった監視長からの本部への報告連絡 ノーゲストの設定でライフガードは海辺に置かない
- ・ 適宜、監視長へ報告できている。友人を巻き込んで励ましの言葉などをかけられている。
- ・ 鼻血対応時に丁寧な声かけできている。LSが落ち着いた声かけをしているため、傷病者の受け答えも落ち着いている。
- ・ 他人を巻き込んだ対応ができている。友人の確保が継続できている。感染防護の装着が的確だった。落ち着いた声かけがあった。
- ・ 離れたところの荷物を取りに行く手配がちゃんとできていた
- ・ 友人を溺者からうまく離していた。人が近づかないように立ち入り禁止の円を描いた。先に荷物を取りに行きたいという希望、救急車に乗りたくないという希望に対し、適切な対応を取った。
- ・ 友人に対する傷病者の説明は、適切であった
- ・ 救急隊への状況説明などはきはきしており、しっかりと適切に対応していた
- ・ 救急隊への誘導グッド
- ・ 救急隊の要請タイミングは、良好
- ・ 靴を履いていたのはグッド
- ・ 傷病者の状況を友人へ適切に説明していた
- ・ 靴で対応グッド
- ・ 記録表を友人に書かせて、別の友人へ荷物を取りに行かせるなど、観衆を活用している
- ・ 感染防護は、グッド
- ・ 救急車に乗せる説明が丁寧
- ・ 関係者に安心させる声かけがあった
- ・ 防護服の確実な着用
- ・ 指揮が
- ・ 消防隊の誘導を含め全てにおいてアベレージに達していた
- ・ 指揮隊長と本部の役回りを参考にしたい
- ・ 観衆に対する対応がとても冷静かつしっかりとコントロールできていた

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

<ul style="list-style-type: none">・ 観衆コントロールはできていたと思う・ クラゲ被害に対する対応はとても素晴らしかった・ 全チームの中で一番落ち着いて対応されていた。・ 周囲の対応は良くまた搬送時の AED を傷病者にきちっと装着したままターポリン短歌に挟んでおいたのは良かったと思います。また、最終的には PPE が全員装着できていたので、これも評価できる店だと思います。・ チームワークはよかった 救急隊への引き継ぎよし・ ベテラン参加しておりまとまっていた・ 高校生中心の参加と聞きました よくがんばりました

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

検討事項(対応に課題があり、改善検討が必要な手技)

監視長

- ・ 現場とコミュニケーションが上手くとれてないと見受けられた。事故が起きていたのに、シーバーが機能していないなら現場に向かってもよかったのではないか。
- ・ 監視長は本部でしっかり、指示と救急への通報などを行った方が良い。
- ・ 海の監視がされていない時間があった。
- ・ 遊泳者を上げるメガホンとプラス確認があると良い。
- ・ 臨場する関係者や人々の協力の仕方、させ方を再考されると良いと思います。
- ・ 空白の時間の使い方を一考されると良いと思います。
- ・ 吐物のロール向きが逆。
- ・ 指示の声小さい。指示少ない。重大事案が発生しているので、見に行くのもよい。情報を取りに行くのもよい。
- ・ 衆人の統制。
- ・ 衆人の統制。別の傷病者の配り。
- ・ ・トランシーバーや手持ち品が邪魔で活動しにくい？
- ・ ・重大事案に対してもっと近くにより情報収集した方がベター。
- ・ (交信不可なら)自ら情報をとりに行く(現場に行く)
- ・ QQ への申し送り、行ってない。
- ・ 忙しい現場へのトランシーバー連絡(自分で情報をとりに行く)
- ・ 通報内容
- ・ 声小さい
- ・ トランシーバー交信、衆人統制、情報収集
- ・ トランシーバー交信
- ・ 想定が始まって準備をしていた。仕方ない。
- ・ 119 遅い？
- ・ 救急隊の現場対応。シーバーが取れなかったら、もっと早く自分で対応しても良かったのではないか。
- ・ 気遣い◎ がんばって。
- ・ 普段のパトロールからガウン着用している？シミュレーションのシミュレーションになっていないか。着用していたら申し訳ないです。
- ・ 落ち着いて対応できていたが、もう少し細かく指示をしたり、情報収集をすべきと思った。
- ・ いすだけ持って対応より、本部に連れてくるべき。
- ・ トランシーバーもなく情報入手できない。
- ・ 長が現場に出てしまったのでは、全体把握ができない。
- ・ 救急隊到着してもしばらく対応できなかった。
- ・ 次を考えての行動必要。
- ・ 長が溺水現場と連絡が取れないとのことで現場に出てしまった。1名本部に残したが、伝令を出しても良かったのでは。救急隊の到着にしばらく対応できなかった。(その間、本部は無人。たいきが対応)
- ・ 現場が混乱していたので、落ち着かせる行動ができたならよかった。
- ・ 救急隊に気づくのが遅れた。
- ・ 鼻血の処置を途中からほったらかし、溺水に全員が行ってしまった。
- ・ 全体把握に時間がかかりすぎた。
- ・ 時には強い指示も必要。
- ・ 救急隊もう少し早く気づければ。
- ・ 感染防止については、もう少し気を配った方が良い。
- ・ 搬送の報告がもらえる体制にすれば、より良くなる。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 行動について常に報告させる。
- ・ 焦ってしまって、嘔吐時、ガーゼがとり出せていなかった。風の影響もあったので、冷静に行えれば良かったかなと。落ち着いて行動すれば良かったかと。
- ・ 制止する事があまりできていなかった。
- ・ ケンカも制止することができていなかった。
- ・ 鼻血の人の防護服が完全でなかった(風で)。
- ・ 傷病者への制止が出来ていなかった。
- ・ 指示の時の声が小さい気がします。傷病者の対応が遅い、声が小さい。制止できていない。
- ・ 制止できていなかった。対応が不十分。
- ・ 最初から防護服を着ていた？ありか？
- ・ AEDのコードの扱いが適切でない。
- ・ 継続監視中断 0:30ー、傷B対応中に監視員実施 OK。BでOK。
- ・ 資器材をBの現場に放置。
- ・ 傷Bのアプローチは早かったが、CPA判断が遅く、CPR対応まで時間を要している。キャプテンが傷Bにくるのはキック兼対応。4名のLSの有効に対応できていたが、救急隊の誘導がない。→到着してから現着と時間を要しそう。
- ・ ゴーグルなし、AEDバンドの取り扱い(砂つく)、Pocket Mask → ●●におく、ロール→砂に落とす
- ・ 救急隊の誘導と時間要す。
- ・ 傷Bの観●をつかうか、うまくコントロールできている。
- ・ 傷Bへの●価、座位、説明を適切な対応がとれていない。難しいシチュエーションだが説明は1人。器材を放置。
- ・ CPR準備に時間を要している。
- ・ 救急隊到着誘導が遅い。誘導必要。
- ・ 初動(B)は早かったが、ガウンを●備で着用のつもりか、観衆の影響もあり、着用できていない。継続監視できていない。
- ・ Bの行動規制を示す説明が簡易では。
- ・ 傷A:対応が遅い。テントでLSは？救急隊到着前までガウンをLSが待機。FRと交替しても良かったでは？
- ・ 最初がPPEフル装備は現実的ではないと思うが。活動全般において、適切であった。
- ・ 全体像の把握が必要、予測してほしい。
- ・ 落ち着いて、無線してください。
- ・ 現場に資機材忘れあり。
- ・ メガホンを活用して統括することが必要。
- ・ 砂浜の搬送中、頭が低いので嘔吐する。
- ・ 活動方針をどんどん示せるとさらによい。(予測が必要)
- ・ クラゲ刺傷の傷病者に説明し、手を離すための工夫も必要。
- ・ →手を離すことにより現場に無線し、先を読んだ活動を手配するとスムーズになる。
- ・ 関係者を逃がした。
- ・ 活動方針指示がやや遅い。
- ・ マンパワーの使い方工夫必要。
- ・ メガホンをさらに有効に使ってほしい。
- ・ 本部を監視長が離れてしまった。代替りのメンバーが本部に入ったが、トランシーバーでの交信がうまく取れていなかった→傷病者記録票に記入がほとんどなかった。
- ・ 監視長がCPRに入った為、指示が出来ていなかった。
- ・ 海の監視が居なかった。
- ・ 傷病者記録票の記入が少ない。
- ・ 溺者への対応は最良でした。管理という点で別の視点で再考されても良いと考えます。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 管理としての対応、最良でした。傷病者の軽・重を考慮した対応を再考されるとさらに良くなると思います。
- ・ 管理としての対応、最良でした。傷病者の軽・重を考慮した対応を再考されるとさらに良くなると思います。
- ・ 頭部保護していない。ROSC に対して安静にするように説得している OK。
- ・ 気道確保していない。
- ・ 継続監視が断続的と思われる。→ただし、他の利用者はいないので OK。
- ・ AED パッドコードきれる→●●
- ・ ガウンの着用が乱れている。
- ・ 継続監視が出来ていない→利用者いないが、パフォーマンスとしては NG
- ・ チューブが●●
- ・ 現場4名対応 LS。本部1名。継続監視ができていない。
- ・ 軽傷者に対しての救急車を呼ぶ判断に迷いがある→後手につながる
- ・ 救急車を呼ぶのが遅い 通報時の伝達事項が少ない(CPA であったことを伝えていない
- ・ 重傷者の対応をしている者から監視長への報告がないまたは遅いため、119 通報が遅れた
- ・ 監視長が事故現場にいつてしまうことで、全体の統制に影響が出るのでは？
- ・ 監視長が事故現場にいつてしまうことで、全体の統制に影響が出るのでは？ 軽症者対応が疎かになり、救急隊到着時の対応も明確な指示がなされない
- ・ 現場から本部への伝達が遅く、通報が遅れた。現場の活動面のリーダーと伝達役のリーダーの役割分担ができていなかった
- ・ 救急要請する際の情報を詳しく伝えるべき。特に場所の情報が少なすぎる。
- ・ 救急隊、継続監視からの連絡を取る際は観衆から離れるべき。誘導の指示が無かった。
- ・ 人が倒れているのを発見してから判断が遅い。連絡の際観衆から離れるべき。現場統括として現場に向かったが、119 用のシーバー所持していなかった。目撃者、関係者の確保が遅い。
- ・ 倒れている人を発見してからの情報への応答が遅い。現場からの情報を待たずに監視長から聞くべき。聞く内容も抽象的であった。救急隊の要請判断基準が不明であり現場からの情報が伝わっていない。鼻血対応の確認がとれてない。救急隊到着後情報を渡せてない。
- ・ 一報目が遅い。救急要請の判断基準が不明。現場からの情報をほとんど取れていない。誘導の手順の準備ができてない。現場からの情報とろうとしていなかった。
- ・ 救急要請が遅い。溺水の言葉を使って救急要請をしない方がよい。傷病者の情報を把握できてない。傷病者記録用紙に入力している情報をファーストコールで伝えられてない。
- ・ 救急要請の際観衆から離れる。現場到着後監視員に指示ができていない。現場にいるが、対応者とのコミュニケーションがとれていない。救急隊との連携がとれていない
- ・ 継続監視ができてない。救急隊とのコミュニケーション不足。救急隊との荷物を持ち帰ってしまった。
- ・ 救急隊要請への情報が少ない。現場からの情報を取れていない。救急要請する際はつきりゆっくり話すべき。遊泳客がいらないのに関わらず浜上げの指示が不明。話す際シーバーを横において話すべき。傷病者の情報のメモが取れていない。
- ・ 現場への指示が抽象的。初期評価を現場からとれてない。結果として救急要請が遅くなっている。救急誘導の指示が不明確。継続監視への確認ができていない。状況把握が救急隊到着後になされている。救急隊とのコミュニケーションがとれていない。
- ・ 現場とのシーバーでのやりとりをゆっくり話すべき。傷病者の情報が来たら監視員への指示出しが遅い。初期評価の情報取得が遅い。現場の状況を救急隊に説明できていない。
- ・ シーバーゆっくり話すべき。継続監視が行えていない。救急隊とのコミュニケーションがとれていない。マスク等をしていない。
- ・ 救急要請が遅い。現場とのシーバー連携が取れていない。鼻血の傷病者を一時的に1人にさせてしまっている。現場の状況取得ができていない。エンボス付けずに傷病者対応を行なっている。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 救急要請が遅い。観衆から離れて通報をするべき。人手が足りていない時に指示出しから対応に回るべき。
- ・ 使用済みガゼなどが散らばっていて、感染対策が徹底されていない。
- ・ 監視長は現場に張り付くと全体が見渡せなくなる
- ・ 溺水者に対するライフセーバーが防護着着用なし。監視長が現場に関わり過ぎ。
- ・ 監視長はもっと自ら情報を取りにかなければならない。日頃のコミュニケーションが取れていない結果か。
- ・ 感染防護資材の使用が不十分。マスク鼻外れ、ラテックス未装着など。
- ・ 監視長もラテックス着用すべき。使用後の資材を素手で回収していた。
- ・ 感染防護対策が基本的に不十分。
- ・ 救助隊の資機材を本部に誤送していた。
- ・ 状況確認していない状況で通報をして、時間を費やしてしまった。
- ・ 救助隊の誘導を3人の現場に任せるのは無理がある。
- ・ 海岸監視が手薄で、見ていない時間が多かったのが残念。
- ・ 監視長マスクとラテックスなし。FA対象者との位置近し。
- ・ 救急通報が上手くいっていないフォローがない。現場の整理指示も必要。
- ・ バックボードを最初から持っていくとよい
- ・ 監視長が現場に入ってしまう、指示が滞ってしまった。
- ・ 救急車要請の判断が早いとよい。現場から要請がなければ、監視長から聞くとよい
- ・ 通報者を帰してしまった。監視継続の掛け声は良いが、いつも頻繁に言っているのか？回数が多く思えた。
- ・ 現場片付けはよかったが、使用後のグローブを素手で触っていた。
- ・ 通報者を帰してしまった。会話が周囲に聞こえていることに配慮する必要あり。返答がないやりとりあり
- ・ 通報者を帰してしまった。
- ・ 現場からの連絡があいまいのまま、通報してしまった。救急車要請に時間がかかってしまった。聞き返しが多くなってしまった。
- ・ 現場から誘導に人を出す指示は確認が必要である。記録票が本部にあり、引き継ぎが後手になっている
- ・ 救急対応が数回人が入れ替わり、対応に時間かかる。
- ・ 本分とのやりとりに齟齬が多かった。
- ・ 現場に救急車要請無線を渡した。冷静な判断できず、場所が伝わらず。持ち場を入れ替わる指示が多かった
- ・ 監視長が現場指揮になっていた。そのような体制ならばよいが。
- ・ 傷病者bへのアプローチに時間を要する。30秒。救急隊を2隊要請は必要か？
- ・ ゴーグルしていないため、嘔吐物がLSの顔面に飛散し付着。
- ・ 傷病者bに対する扱いが少し荒っぽい。感染対策が適切でない。ただし初動が早いことはいい。救急要請に時間を要した。5名を傷病者bの現場へ 継続監視中断
- ・ 観衆への対応が優しく、現場の統制がとれていない。
- ・ ゴーグル無し、BBベルトの扱いに時間を要していた。
- ・ 傷病者bへの扱いが粗い。
- ・ 現場とPCのコミュニケーションが不足。意識レベルの確認が不適切であった。
- ・ 現場と本部のコミュニケーションが確実にとれていない状況で救急要請。
- ・ 明確な立ち入りエリアの設定がない。吐物処理にタオルを指に巻いた方がいい。
- ・ 救急隊が本部着から現着までの誘導に少し時間を要している。
- ・ 吐物処理にタオルを指に巻いた方がいい。
- ・ 観衆の統制に時間を要している。
- ・ 現場と本部の最初はコミュニケーションがうまく行っていない。パトロールサポートは good

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観衆の統制が確実ではない。 ・ 距離的に無線は必要か。消防に情報を。 ・ 無線を待つ事も重要。鼻血傷病者を日陰に入れる。のぼせの原因。監視長自ら動いても良いのではないか。 ・ 血圧計を砂の上におかないよう。救急資機材搬送手伝って。 ・ 無駄な無線交信が多い 119 番通報はまとめてから ・ 現場が手一杯の時は情報を待つのも一つ 電話番号は個人情報なので無線交信は注意 ・ 全体を把握出来ていないと感じた。鼻血の手当が間違っていた、 ・ FA 担当に付きっきりにさせる必要があったか?臨機応変な対応が必要。=なぜ監視長は本部を離れないのか ・ どこまでライフセーバーが扱う資機材なのか、使い方など、統一すべきかも含めて検討が必要 ・ 感染防護 ガウンの着用が適切でなかった。資機材最初を現場残し 救急要請に時間を要した ・ ゴーグル未着用 ガウンの着用が適切でない 状態変化を想定しバックボードを持参した方が良い。 ・ 通報から現場への動きが遅い 落ち着きあるがまずはファーストは直ちに向かった方がいい ・ 拡声器を使用した方が良く、また、本部を離れない離れる場合、誰かに事後を依頼する、指示は大きくはっきりと。 ・ 拡声器の使用 ・ 吐物除去で体位を変える際に、AED(パッド～コード)を引っ張り、本体が砂に埋もれるようなシーンが見られた。取り扱いについて、もう少し丁寧であるべき ・ トランシーバーに頼り過ぎてしまい 状況がつかめていないように感じた。AED の取り扱いについて、もう少し丁寧であるべき ・ 監視員がややパニック気味に見て取れ、監視長が冷静であっても指揮系統、うまくいかないように見えた ・ 監視長は全体をどのくらい把握できていたのか、は見えてきませんでした。 ・ 監視長が本部で待機してるなら、現場の指揮と全体の指揮は分けた方が良くもかもしれません。AED の使用後の扱いがひどいです。砂の上に放置されたいました。 ・ 監視長が現場の指揮を取っていたので、全体の把握が出来ていたのかは不明でした。人数が一人少ないので仕方ないかもしれません。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">監視員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動の障害となる観衆への対応。 ・ 専従要員の配置や大声による毅然とした対応が必要と感じた。 ・ 傷病者接触から応援要請まで時間を要しており、119 番通報の遅延につながっている。 ・ 応援要請から到着までに時間を要している。 ・ 接触からの救急要請が迅速であった。 ・ 人員の配置が適切か疑問(1人の傷病者に多人数対応) ・ 観察→胸骨圧迫まで長い(早期実施が望ましい) ・ 嘔吐後の体位変換が遅く、窒息の恐れあり。 ・ 人員配置が不適切、救急隊到着後は不要な人員は戻す等 ・ CPA 確認時 ・ 円が小さい ・ 心マできる人を探した←Good ・ 応援要請が遅い ・ マスク着用タイミングが早い ・ 円をしめして融離させていない。 ・ 搬送時、協力が受け身であった。 ・ 早期人員投入、連携もとれていた。 ・ 救急隊との連携もスムーズ。 ・ 要救が歩き出した際、手があいている物が荷物を片づける気配りがあった。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ メモ係がないように感じた。
- ・ 吐いていても体を横にせず、顔だけを傾けた。
- ・ 3分22秒で、体を横にする、遅かった。
- ・ 一緒に歩き出し制止できず。
 - 救急隊を案内していない。
 - CPR報告？ 心マ 3分くらいボード上での心マは Good。力が伝わりやすい。
- ・ 観察の前にすぐさまボードに載せた。ここまでできるか、まず観察、反応を確認しないか。
- ・ メモを持ったまま救急要請 案内人行った。
- ・ その間の聴取結果の記載は
- ・ 想定にはめ過ぎ。段取りは良かったが、1つ1つを見ると落ち度があり。
- ・ 監視塔から離れる際は、それをしっかり伝えたほうがいい。
- ・ 今何をしているのか、なぜその場から離れないといけないのかなど説明、明確に関係者に伝えることが必要。
- ・ AEDを必要とする緊急時には感染対策のための服を着ている時間をもったいない。
- ・ 周囲でおこっていたケンカをとめられなかった。その場から離すことが必要。
- ・ 関係者が勝手にライフのバックの中身を出してしまう状態であった。
- ・ AEDが必要な人への応援が少し遅かった。現場が少し混乱していた。
- ・ 現在の状況を伝えることで周囲を落ち着かせた方がよかった。男性のライフセーバーが関係者（男性でありケガをさせる恐れあり）の止めにはいったほうが良かった。
- ・ 救助者をあまり動かさない方がよかった。
- ・ 救助に無中になり、周囲の環境を整える人が少なかった。
- ・ AEDの使用方で周囲の安全を確実にするべきだった。
- ・ 状況確認を優先して行動するとよかった。
- ・ 救急搬送のとき人数が少し多い気がする。
- ・ 事後処理に1人ぐらいつけてもよいと思った。
- ・ 救助者のまわりを囲むようにライフセーバーの配置を考えられると、もっとよかった。
- ・ 逆流の対応やわらかい布を用いる等の配慮はあったが、意識が戻る場合だったため苦しそうだった。強くかき出さなくとも体位変換をうまく使うと良いのでは。
- ・ 搬送後の現場に残された器材が少なかった。
- ・ 救急車をすぐに呼んだが知人などへの用意が不十分ではない？
- ・ やじ馬の対応者、傷病者の対応者をはっきりと分けて対応するべきだと感じた。
- ・ 逆流物は砂に埋めた？様だったが、掘り出されてしまう可能性があるのでは。
- ・ 混乱した現場でいかに正確に AED を使用するか工夫が必要だと感じた。
- ・ 傷病者に接触する前に十分な感染対策がなかった。
- ・ ショック不用で心肺蘇生中止の判断をした？
- ・ しっかりバイタルサインの確認をしたのか。
- ・ ガウンを着て想定をはじめていたが、それがパトロール体制なのか。
- ・ 傷病者に対しての継続的な声かけ。
- ・ 救急隊の誘導が分かりにくい(チューブで目印にするなど)。
- ・ 重溺の方の情報を最低限、聞き出す。
- ・ 血液感染も考慮して、鼻血の止血を優先すべき。
- ・ 事象 A: 本部から傷病者 A を離しすぎ。連携が取りづらい。シーバーもかぶる。適切な説明を省きすぎ。ラテックスをつけるタイミングが遅い。
- ・ 事象 B: 3rd の防護服は？使用後のラテックス処置が甘い。救急隊の誘導ができていない。
- ・ 事象 A: 消毒 O お湯であたためる説明をしているのに水をあてていた。
- ・ 事象 B: 逆流。パッドの位置が悪い。顎を下げられていない。
- ・ 事象 A: ガーゼが小さい。
- ・ 事象 B: チーフと連携が取れていなかった。現場がシーバーがとれない。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 事象 A:ラテックスで砂をさわらない。処置が遅い。
- ・ 事象 B:連携が全然とれていない。AED の電源遅い。
- ・ CPR なし。観察なし。逆流対応なし。
- ・ 事象 A:傷病者の情報が少ない。救急車要請遅い。
- ・ 事象 B:情報がほしいというのは、どの情報が欲しいのか、的確に聞くべき。3rdの感染対策。
- ・ 事象 A:お湯を袋に入れる意味は。
- ・ 事象 B:本部にガウン要員。チューブを持って継続監視できていれば○。救急隊誘導が遅い。気づけていない。毛布かけると足の動きがみえない。意識ありの時。
- ・ 事象 A:クラゲの断定が早すぎ。
- ・ 事象 B:要請が遅い。
- ・ 最初の6秒観察が無く、胸圧をしてしまっていた。
- ・ 発見したその場で処置を行っていたため、移動させ、完全な所でやるべき。
- ・ 取りつくまでに時間がかかってしまっている。
- ・ 周囲の人がケンカなどをしていたが、それへの対応が出来ていない。
- ・ 周りがさわがしくて、伝えなきゃいけない内容が聞こえない。
- ・ AED を確保したのはよかった。
- ・ 関係者の情報をしっかりとれていた。
- ・ ケンカしている人が CPE の妨げ、警察を呼ぶか、その2人に付く。
- ・ 救急隊が来る前に立たせてしまっている。
- ・ 鼻血が出ている方を1人にしてしまっていた。
- ・ 嘔吐の前、胸圧を出来たのではないか。
- ・ 救急車要請が遅い。
- ・ 現場とタワーの共有が出来ていない。
- ・ 器材を周囲の人にもたせてしまっている。
- ・ AED の順番が違う。
- ・ 関係者のメモをとっていない。
- ・ 救急隊到着が遅れた(連携ミス)。
- ・ その人が誘導に行ってしまった。
- ・ 関係者に聴取する際、ライフセーバーが海に背を向けていたため、ライフセーバーは海を見れるようにする。
- ・ 胸圧する際は傾斜ではなく、平らな所で。
- ・ バックボードの使用。
- ・ 毛布があるのなら、保温。
- ・ 鼻血の対応の場所。
- ・ ライフセーバーが「大丈夫です」と言ってしまう。
- ・ AED を砂に付けず傷病者が移動しても手で持っていたのが良かった。
- ・ 拡声器を使ってよかった。
- ・ 人数を確保し、しっかりと胸圧に周っていた。
- ・ ピーパトの人がかけたのは対応が早くなりよかった。
- ・ 体の向きを変えたのは良かった。
- ・ 「何やればいいのか?」という協力的な人を使うのはどうか?
- ・ タワーに人が倒れているだけで、一気にタワーから4人もいなくなるのはどうか?
- ・ 現場の状況を報告を細かくする。
- ・ 鼻血の処置はライフセーバーは海に背を向けない。
- ・ 回復体位にはしないのか?
- ・ スタート時、海の監視を。
- ・ 感染防止の準備に時間がかかりすぎ。遅い。
- ・ 風向、風速を考慮した感染防止の服装の準備する。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ ケガ人から眼をはるする
- ・ 巡回パトロールはしないのか。
- ・ 何か発見したら、感染防止の準備を全員で始める？
- ・ ケガ人の応急手当の後の傷病者に対して近隣のクリニックへの案内(図示)していることは、とても良い。保温、手当ともに良い。
- ・ 最初から感染防止の為にエプロン、手袋をはめてのスタートはどうでしょうか。
- ・ 夏場の環境を考えての準備、監視、巡回、待機体制としてどうか。
- ・ 現場からのシーバー(焦って)入っていない。(通話ボタンを押せていない)
- ・ B: 応援が遅い。3分くらいかかっていた。
- ・ 毛布等で他の人を遮る(ケースバイケース)
- ・ A: グローブなどで対応→のちほどはめる。
- ・ A の座らせる場所。B を背にする。→のちほど、そうしていた。
- ・ クラゲへの応急手当(処置)は？→お湯かける→何故かけるのか理解していない様子。
- ・ A: 現場の野次対応、要対策。
- ・ 毛布で遮る。円を描き囲む等
- ・ →応急手当に支障をきたす。
- ・ B: クラゲの応急処置は？
- ・ 鼻出血、ティッシュかえていない→大丈夫？
- ・ A: ふき
- ・ B: 縄。
- ・ 現場。本部から現場のシーバー応答遅い。
- ・ 本部からシーバー入っていない。
- ・ (通話ボタン押せていない)
- ・ 海見っていない
- ・ 現場長→チーフへのハウレンソウが乏しい。
- ・ 元気がほしい
- ・ チーフは常に本部にいるべき。現場長と連携とりながら情報をまとめ、共有してほしいかも。
- ・ 現場長→本部、情報共有弱いかも。
- ・ やじうま処理下手。←若さかな？
- ・ 現場長から情報発信弱いかも。
- ・ 現場感染対策、弱。
- ・ 現場⇄本部情報共有弱い。消防への通報も弱い(グダグダ)。
- ・ 連絡の不達が見受けられた。
- ・ 対応人数の検討。
- ・ クラゲは冷やすだけだった。
- ・ 水着のまま保温確認していない。
- ・ シーバーやチューブをもって対応する。
- ・ 患者が自分で鼻血の対応をくびただけが見ただけ。
- ・ シーバーでの連携が取れ
- ・ チームとしての連携が取れていない。
- ・ 消防への連絡時、情報もっていないのに推測
- ・ クラゲの温めるエビデンス理解できていなかった。
- ・ 口調が強く感じた。
- ・ 本部が(長)現場へ動いていた。
- ・ 監視員はトランシーバーを持っている。
- ・ 監視員はトランシーバーを持って、現場に駆けつけている。しかし、本部からの問い合わせに答えていない。
- ・ 要救助者の関係者に対しての対処の方法をあらかじめ考えておく。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ チーフが現場は？→自ら AED。本部に指示者なし。現場長もいない。チームではない。
- ・ 本部⇄現場連絡×
- ・ 観衆対応？×
- ・ 撮影を止めさせることに力を入れ過ぎている。大声で周辺の人に指示を出すと、重要な情報が入らなくなる恐れがある。
- ・ 「蘇生処置を行います」の声掛けがあれば、なおよし。
- ・ 声かけが十分されている。胃内容物逆流対応はもう少し時間をかけても良い。
- ・ 周囲の人への配慮及び説明不足、チームとしての連携不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。嘔吐物顔面付着、感染防止不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。資機材の慣熟不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。傷病者の扱い不適切。
- ・ 周囲の人への説明不足。チーム内の連携不足。
- ・ 周囲の人への配慮及び説明不足。チーム内での情報共有不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。チーム内での情報共有不足。
- ・ 周囲の人への説明不足。チーム内での情報共有不足。
- ・ 周囲の人への説明及び配慮不足。
- ・ 砂場にて口をゆすぐなどで水を使うことは出来ないのだろうか 観衆の対応は一人ではできなければ応援を求めたほうが良い
- ・ AED を意識ありの状況で無理に使用していた 観衆の対応が救急隊に指示されてから実施しており十分ではない 搬送に追従していない
- ・ 事情の分かる友人の確保が出来ていなかった 防護服なしで対応していた
- ・ 防護服を着用しないまま対応している者がいた 救急隊が到着してからの観衆の対応が不十分だった
- ・ 観衆を対応する者がいない遠ざけた方が良い
- ・ 防護服なしで対応していた 観衆対応の人数が少ない 間に入って対応すべき 指示が弱い
- ・ 対応人数が少ないので応援をもっと早く求めるべき 代表する友人は現場から離して聴取したほうがよいと思う
- ・ 事情の分かる人を離して聴取したほうがよい 現場対応の人数が足りない
- ・ 観衆への指示は大きい声でやったほうが良い 観衆を引き離して安心させる声掛けがあると良い
- ・ 防護衣なしで対応していた 指示の声が小さい 事情を知る者の確保が遅い
- ・ 嘔吐あったらすぐにマスクを外して、早急に嘔吐対応すべき②ガウンのしっかり着用すべき
- ・ 心肺蘇生に入るの遅い②嘔吐の際に口を全然開けられてないこともあり、吐物をかききれてない②AED パッドにコードが張り付いていた
- ・ FA の声かけの対応が遅く、痛い時間どうゆう状況なのかが傷病者がわからない時間が多かった②監視長 FA に対応しすぎて、またビーチパトロールがいなくて、海が見れていない時間が多かった③ガウンをしっかり着るべき
- ・ 倒れてる人がいることを分かっているのになぜ AED を外に出して、現場に近寄せたのか？
- ・ ②用意もせず、現場に向かった③チューブ肩から下げながら傷病者対応していた
- ・ AED 準備ができていない
- ・ 気道確保が不十分
- ・ 傷病者へ痛み刺激等での JCS 評価ができていない
- ・ バックボードに乗せることを優先したため CPR 開始が遅れている、意識戻った後の訴えを聞かず行動を制限している

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 119が遅かったのでは
- ・ 傷病者の訴えを聞かず動きを抑制している
- ・ バックボード載せることを優先して CPRが遅れている
- ・ AEDなどの器材が頭側がない
- ・ 口内の逆流物を確認せずに体を戻している
- ・ チューブかけっぱなしで邪魔になっている
- ・ 継続監視役の目が現場に向いている時間が長い
- ・ 逆流対応の頭部保持が甘く、傷病者の頭を落とす場面があった
- ・ 現場に到着した監視長が座る場面があったが、立って指示を出す方が全体を見渡せ統制が取れるのでは
- ・ 救急隊への引き継ぎを監視長がしていたが、最初から観察をしているファーストと関係者がそばに居たのであれば交えて引き継ぎをしても良いのではないか
- ・ 逆流後体を戻した後にバイタルの再評価を
- ・ 傷病者と同時に救急隊のバックを運べていない
- ・ 傷病者を無理やり座らそうと力をかける場面があった
- ・ AEDの貼る位置が胸部中心になっている
- ・ 救急隊バックを運ぶ人員を確保できていなかった
- ・ 関係者を押し倒す場面があった
- ・ AED到着が遅れている
- ・ 周囲の統制をとる人員が確保できていない
- ・ 傷病者の訴えを確認せず、体を抑える場面があった
- ・ 意識なしの評価が早い
- ・ 周囲を上手く使うと良い
- ・ 細部の対応まで心がけると良い
- ・ もう少し人に対しての対応を細やかにやると良い
- ・ 情報共有をしっかりと行くと良い。
- ・ 情報共有をしっかりと行くと良い
- ・ アプローチは悪くないが、時間経過時、過程のクオリティがもう少し!!
- ・ 少し焦ってしまったかなと。もう少し落ち着くとお良い
- ・ 緊急対応に女性が多かったので、周囲を上手く使うと良いと思う
- ・ 流れは良い。細かい部分と、想定外時の対応を細やかに
- ・ バトロール時、体制、資機材の工夫があると良い
- ・ バトロールメンバー内意思の疎通が必要
- ・ 全体的に惜しい。連絡事項など含め落ち着いて対応を!!
- ・ 然るべき泥酔対応に不安あり
- ・ 嘔吐対応が厳しい
- ・ 荷物あとでとりに行く? バックボードに先に載せた方が良い。資機材置きっぱなし。現場の人数3人足りてない。継続監視はこの状況で常時は不要。傷病者記録表渡すべき。AED使ってた?
- ・ クラゲ冷やしている。鼻血放置。声かけなし。心配蘇生開始が遅く中断が長い。AED砂まみれ。記録表渡してない。
- ・ 傷病者への声掛けが少ない。ガウン装着に時間かかりすぎ。ファーストが感染対策なしでコンタクト。1人で処置。嘔吐処理で口に砂入ってる。救急車要請してるのに呼ぶのおそい。監視長が現場対応してるので指揮取れてない。記録表渡してない。申し送り時に容体の変化に触れていない。
- ・ 感染対策してないので嘔吐処理できず。感染対策なしでコンタクト。AED装着なし。人が誰もいないところ継続監視してる。救急車遅い? 記録表渡してない。
- ・ せっかく移動したならバックボードの上に置けると良かった。第一発見者の確保がない。

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 砂山の上にバックボード置いてしまった。バックボードのバックル閉めっぱなしで乗せてしまった。シーバー地面に直置き。
- ・ シーバーでの受け答えできていない。
- ・ 記録表情報を十分に記入できてない。AED 蹴られてる。救急隊来てから知人へのコミュニケーション取ってる。救急隊の荷物本部に持って行ってしまふ。バックボード引き摺ってた。
- ・ 観衆コントロールができていなかった。監視長と現場の連携ができていない。嘔吐処理した手で、観衆整理していた。記録表渡したらよかった。荷物置いて行ってしまった。搬送中紐垂れている。チューブの紐も解けていた。
- ・ 嘔吐先にゴミ袋。手際○。バッグボードのバックルに工夫がみられた。継続監視は不要では？観衆と冷静に会話。
- ・ マスク現場でつけるのは遅い。ワンマン嘔吐処理体制逆のが良い。
- ・ AED ちゃんとはれてない。バックル紐絡まって閉められてない。
- ・ 救急車要請が遅い。感染対策マスクラテックスのみ。FA 機材などなし。連携・情報不足。荷物放置
- ・ 鼻血対応は？嘔吐対応遅れた？記録表現場で渡した。警察呼んでた？
- ・ バックボードつバックボードを使うことに気をウオッチ CPR する際にはナメてるとの布袋ついたままバックボードを使ってる CPR 中止の判断があることを嘔吐のバックボード/は必要があるのか
- ・ 嘔吐への対応が不十分 AED の装着せず 3 人のうちの 2 人が顔を正しく装着していたファーストエイドに対するクラゲの処置ができていない日出血への対応も、鼻根圧迫するも立脚せず
- ・ 気道確保が正しくできていない頸椎保護ができていない顎を持ちすぎていて首を回転させている意識のない傷病者に対するどっち回復対位にするべき
- ・ 意識レベルの判断ができるとよかった頸椎方が回復体の先へできていなかったファーストエイドする人が感染防止なかった手袋をしてなかった
- ・ 意識低下をしてる傷病者に対しての回復体の判断をとある人に対する回復体の判断俺が明確でない国内周囲の異物をタオル等で除去した方が良い
- ・ ファースト入れて鼻根を圧迫したさらに冷却をしたゆいいつ
- ・ 意識のない人の嘔吐に対する対応として回復体は良くできたと思いますが残念ながら異物に対する除去は無いものまた搬送中やバックボードを搬送中に手を話したり観客への対応に対して行いながらの観察はできないと思います。良い店では手袋を 2 重にしていたと言うことで感染への対応が良かったと思います
- ・ ファーストエイドの対応者は手袋を買うんゴーグルをちゃんと装着しており血液に関する本行がよくできていた分前から少量バックボード空手を話したのはあった傷病者の意識呼吸が回復が早すぎ(-)嘔吐が認められた。想定が優しくなったために
- ・ AED の到着が遅いまた口腔内に手を入れるのは危険まずはガーゼ等で拭き取れない部分を本人の意識の確認をしながら指を入れるように絶対に助けると言う言葉を言ってはいけない意識がない場合には最初に AED を一緒に持っていくことを忘れずね
- ・ 口腔内に歩出ると危険ですバックボードの工程について慣れているので時間がかかります救護バックを前につけてると傷病者に接触するときは背部に回すとかの配慮
- ・ 本部へ応援要請が必要ではなかったか、本部機能が孤立していなかったか
- ・ 吐物に対する感染対策
- ・ 救急要請のタイミング
- ・ 感染対策の徹底
- ・ 感染対策 吐物を浴びていたか 処置の際の感染対策
- ・ 衆人対応
- ・ リーダーは指示に問題なくチームをまとめていたが、もうすこし元気があっても良い
- ・ 遊泳禁止にしてマンパワーをかけるか、多少負荷がかかっても監視業務の事業を継続するか
- ・ 鼻血の観察はマスクでできるか
- ・ 傷病者 B にマンパワーをかけたが、有効な人払い、制圧ができたか

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

- ・ 現場がよくコントロールできていて特にない(少ない人数で制圧できていた)
- ・ CPR 現場対応は迅速であったか 感染対策の徹底
- ・ 救急要請の際に仮想消防に正確な情報が伝えられたか(無線の習熟を)
- ・ 前年と比較し、衆人の現場コントロールがやや甘くなかったか
- ・ 適切な装備、パットを貼る前に確認を、バックボードの有効活用、シートの有効活用
- ・ 適切な装備、
- ・ 医療行為に踏み入りない、吐瀉物とれたら引きつごう
- ・ 寄り添ってない最初、鼻血
- ・ クラゲ、ペットボトルそのまま
- ・ その後、千葉の話し
- ・ 鼻血を拭いたティッシュの後処理、一枚の新しいティッシュで包んで椅子の上
- ・ 鼻血、本人に押さえさせるクラゲ、最初お湯かけてその後ペットボトル温めてあげる、クラゲの知識不十分や
- ・ 鼻血対応最初 クラゲペットボトルとイスで椅子にペットボトル温めて 監視は本部より行う
ゴミ箱準備 傷病者の容態確認 監視長より報告が本部に監視継続を確認
- ・ 感染防護の装着が不完全のため、手技が煩雑になっている。異物除去が不適切。
- ・ 感染防護の装着が不完全のため、手技が煩雑になっている。言葉かけ「大丈夫です」の多用。
- ・ アンビュー使用の有無 有資格者かどおか確認が必要。JLA は有資格者以外は使用しないとなっている。
- ・ 身体を起こすとき頭を支えるのがおくれた。友人らが溺者に近すぎて活動の邪魔になってる。一人だけぼーっと立っているときがあった。
- ・ 友人が溺者に近すぎて活動の邪魔になってる。
- ・ 救急隊への申し送りを紙にまとめて渡すのは良いが、確認のため要点を口頭で伝えたほうが間違いがなくて良いかと思う
- ・ ライフセーバー1名が対応かのうだったので、支援してもらえばより良い対応ができたのでは
- ・ 観衆によるスマホなどの撮影に際して適切に対応を
- ・ 傷病者を愛護的に
- ・ AED 資機材を丁寧に
- ・ 観衆のコントロールを適切に
- ・ ライフセーバーの応援の連携を適切に
- ・ 友人からの情報収集が少ない
- ・ ライフセーバーの感染防護が途中から雑に
- ・ 感染防護も大事だが、傷病者の状況をいち早く知るためにも、現場へ早く向かう必要がある
- ・ 資機材を丁寧に扱うこと
- ・ 防護服の着用がない
- ・ 感染対策に関して役割が取られていた。
- ・ 関係者対策
- ・ 最初のスピードアップ
- ・ バックボードの活用を検討してみてもは
- ・ シーバー活用の功罪を整理してみてもは
- ・ 最後に AED を浜に置き忘れた
- ・ リーダーの役割をもっと明確にすべき
- ・ リーダーはもっとメンバーを動かして、基本的には本部から動かないほうが良い
- ・ 田原さんが参加しない場合の新宮チームを見たいです
- ・ この想定にバックボード持つてく意味があったのか、また救急搬送をし、傷病者に説明する際に病院に行ってるという説明を恐竜また感染防止のためのゴーグルやダウンは手袋のみであった。胸骨圧迫の手の位置が低かった

第7回JLAシミュレーション審査会 検討推奨事項

2023年2月3日

<ul style="list-style-type: none">・ CPR の中断。特に動きが出てから CPR を行うのはおかしいと思います。また嘔吐の対応について背中をさせるだけでは充分ではありません。CPR の手の位置が低く、口腔内正式もできていません。傷病者の搬送等の対応についても明確な説明ができていません。ピーピーの紐がきちっとも全てなく風によって飛ばされていました。また、AEDは砂に生まれた状態で安全な資機材の管理はできていません。・ Siri のパットの位置がおかしいです。方のアストラ心臓の近くでした。ゴーグルが外れて私何も見れていましたし、CPR 会社の判断が悪いです。番から早く境界にして観察できる体にもっていく必要があります。ダウンゴーグル装着してない人が多く、手袋しないで CPR 行っていました。・ CPR の開始と CPR 中断の判断が的確にできていません。また胸骨圧迫の位置が低いように思います。・ 感染対策の徹底を ゴーグルやメガネなどで眼の保護を・ 感染対策の徹底を ガウンをきちんと着ましょう・ 感染対策の徹底を ガウン、手袋をきちんと着ましょう リーダーシップを発揮して大きな明瞭な声を出しましょう 記録係の活動が孤立しています ゴーグルやメガネなどで眼の保護を・ ガウンテクニック 2 人法で着ると良い 現場到着がやや遅れた AED パッドの位置は心臓を挟み込むよう
--